

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

# MELDIA



障がい者と共に  
**創る**

障がい者と共に  
**担う**

人気連載エッセイ  
障がいのある息子と私  
水越けいこの「Msize／はじまり」

MELDIA Cafe - GALLERY - 開催詳報

日本代表女子

日本ブラインドサッカー協会&

障がいとスポーツ

2018 in ながの×布施博

全国ナイスハートバザール

布施博による取材 布施博が訊く／特別編

MELDIA

2019  
JAN.

VOL.13

月刊MELDIA VOL.13 2018年11月25日発行(毎月1回25日発行) 第13号 通巻13号  
発行所 / 一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA  
GROUP

## 同じ家は、つくらない。



メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計  
〒163-0632  
東京都新宿区西新宿1-25-1  
新宿センタービル32F

25th  
ANNIVERSARY

まだ25年、  
これからのメルディア

月刊MELDIA  
VOL.13  
TAKE FREE

障がい者就労支援事業所の「自慢」の商品を集めた販売会です。

# 全国ナイスハート バザール 2018

in ながの

＋農福連携マルシェ



全国社会就労センター協議会（セルプ協）が主催する「全国ナイスハートバザール」は全国各地で年に数回行われており、各地から福祉関連の事業所や団体が参集し、地域の特性を活かしたり、地域独自の特産品を利用した、農産物、食品、工芸品、小物などを販売するというイベントだ。

今回、このイベントが、長野県軽井沢町にある「軽井沢・プリンスショッピングプラザ（軽井沢アウトレット）」内のイベントスペースで開催された。地元・長野県の福祉事業所や福祉団体を始めとして、全国から73団体が参加し、そこでの販売アイテム数は実に約2万点という大規模な催事だ。

このイベントに俳優・布施博が訪ね、関係者や参加者にお話を伺った。



見てください 私たちの仕事を。  
色彩いっぱい 夢いっぱい。



布施博  
Hiroshi Fuse

社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
全国社会就労センター協議会(セルブ協)  
会長 阿由葉寛さん  
Hiroshi Ayuha

特定非営利活動法人  
長野県セルブセンター協議会  
理事長 小池邦子さん  
Kuniko Koike

特定非営利活動法人  
日本セルブセンター  
会長 高江智和理さん  
Chiori Takae

全国の事業所で作られた品々  
その品質の高さには舌を巻く

布施 イベントを拝見しましたが、陳列された商品がどれも素晴らしかったですね。どれもお店などで普通に見かけるもの何ら遜色のない物ばかりでした。

小池 ありがとうございます。  
布施 それどころか、特に布製品などは、一般にお店で売られているものより丁寧で作られている印象すら受けました。

小池 私もそう思っています。今回、出店しているどの事業所や施設の商品も、安心して皆様にとって頂けるはずだと思います。

高江 布施さんは既にご存知だと思いますが、知的障がいのある人などは、長時間、同じことを同じように繰り返すということに長けている人が多いんです。そのため、品質も均一で、彼らが生産したものには安心感があります。

布施 ええ。私も今までこの冊子の取材で色々な所を見てきましたが、障がいのある人の中でも、「続ける力」を持っている人たちがする仕事を見てみると、やっぱりすごいと思います。

小池 私も出店される人たちとその商品を信じて、開催にまで漕ぎ着けることができました。

布施 小池さんはこのイベント自体に対してはどう思われていますか？

小池 出品される商品のレベルも、イベント自

体の水準も、イベント開催を重ねる毎に上がっていると思います。先ほど布施さんが仰られた通り、商品を見ただけでは障がいのある人たちが作った物だなんて誰も思わないですから。

布施 そう思いました。

小池 さつき布施さんが布製品のことを仰いましたが、布製品は手触りが大切です。作り手である彼らを持つ感覚の鋭さと、同じことを繰り返し続けられるスキルとが相まってこそ、触り心地の良い物を安定して作れるのだと思います。布施 なるほど。

高江 以前では、作業所で作られたものを一般の人が買う理由に「障がいのある人が作ったから」という興味だけであることが大半でした。それが今では「それが欲しいから」、「良い物だから」というように、品質を理由にして買われる人が着実に増えて来ています。

布施 そうですか。高江さんはこのイベントについてはどのような感想をお持ちですか？

高江 陳列された商品を見ると、地域性を意識した商品が多くありました。それがとても良いと思いました。

布施 それはどついつつ理由で？

高江 例えば、とある利用者の人が社会に出て行くことと思った時、その人の住む地元や地域こそが、最初に出会う「社会」となるわけですから。その地域の特性を活かした商品を作るのは、至極当然で重要なことなんだろうと思います。



に阿由葉会長と対談させて頂いた時も、今朝の開会式の時にも言及されていましたよね。

阿由葉 はい。それが重要な課題なんです。

小池 でも、事業所の商品であっても、食品を扱う事業に関しては、アレルギーとなる可能性のある使用食材の記載をしなければならぬなど、国が定めた「食品表示法」を遵守しなければなりません。ですから、どこでも簡単に始められる事業という訳でもありません。

布施 そうなんですか。  
阿由葉 福祉施設は規模の小さな団体が運営していることが多いですからね。細かなことでも、活動の障壁になることが無いとは言えません。法律を遵守することも求められるんです。

小池 阿由葉会長が言う「利用者の工賃向上」という目標達成のためには、当然それなりの事業をしないとけません。使用食材のアレルギー表示などの記載義務は、食品を販売する以上は守らねばならないことではありますが、規模の小さな事業所では、それを行うために新たな工程を設けるのが難しい場合もあるんです。

布施 確かに。そこは難しいところですね。

小池 そういったこともあって、最近では利用者の人たちが、人手が足りない農家へ手伝いに行つて賃金を頂くことで、利用者の賃金の向上を図る事業所も増えてきました。

布施 それは、人手を農家に派遣するというようなイメージですか？



布施 そうでしょうね。例えば、どこかの施設の利用者さんが社会参加をするとなったら、それは「その地域に溶け込んでいく」という事でもありますから。

高江 だから、地域の「もの」を使った食品などを生産し、それを地域の中で販売するというのはとても大きな意味があると思います。

布施 そうか。障がいのある人が生産したものが地元の特産を使っていたりしたら、それはその施設での活動が地域の活性化の一部を担うことにも繋がるということになるんですね。

高江 そう思っています。  
布施 地元のものって聞くだけで、やっぱり俺も興味を持ちますよ。でも、それをやるのは、ただ売りが上がるという点だけじゃなくて、利用者の人たちの活動が、社会参加に繋がるといふ重要な一面でもあるという事ですね。

阿由葉 仰る通り。正にそう思います。  
布施 なるほどなあ。興味深い。阿由葉さんはいかがですか？

阿由葉 お二人が答えた内容と大きくは変わりません。もし付け加えるならば、私たちが「ナイスハートバザール」を開催する理由の一つが、就労施設などで働く人たちの工賃を向上させるためです。その点で言うと、ここで扱われる商品の水準が上がることで、その目標に大きく近づくことにもなるので、とても喜ばしいです。

布施 「利用者の工賃の向上」に関しては、以前



一般財団法人メルディア

# MELDIA

おかげさまで「一般財団法人メルディア」は設立1周年を迎えることができました。当財団では、障がいのある人を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じ、広く社会と人々に貢献するため、これらの事業を行っています。

## 02 広報誌の発行

障がいのある方と、そのご家族への情報発信を行うため、フリーペーパーの広報誌「月刊メルディア」を毎月発行しています。毎月2万部強を発行し、現在は首都圏や中京エリアのイオングループとその系列店、イトーヨーカドーグループとその系列店、特別支援学校、障がい者支援施設等に配布しています。



## 04 サッカー支援

才能があっても家庭の経済的な事情などで、プロプレイヤーを目指すことをあきらめざるを得ない青少年たちの夢を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。2018年9月現在、選考会を経て選ばれた3名の若者に対する支援を行っています。



## 01 事業内容

- ① 障がい者及び障がい者を支援する団体等への助成および支援事業
- ② 様々な理由からスポーツ(サッカー等)を続けることができない児童、青少年に対する助成および支援事業
- ③ その他の事業



## 03 取材活動

広報誌「月刊メルディア」では、障がい者支援事業所、障がい者雇用を推進している企業、スポーツ施設、各種団体、障がいのあるアーティストなどに取材をさせていただき、それらを掲載しています。取材記を当財団のFacebookページにでも紹介していますので、是非そちらも併せてご覧ください。



## 05 サッカー観戦チケットプレゼント

Jリーグのシーズン開催期間中は、「湘南ベルマーレ」のホームゲーム観戦チケットをプレゼントしています。療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人と介添者の人、2名1組(ペア)で試合を観戦できます。  
※今号ではプレゼントはありません。



布施博が訊く

全国ナイスハートバザール2018 in ながの

全国ナイスハートバザール 2018 in ながの



小池 そうです。この就労の形は「施設外就労」と呼ばれています。農業を営まれている人たちの中には深刻な労働力不足のせいで、自らの土地を手放す人や、耕作面積を減らす人なども少なくありませんから。

布施 そういう就労も良いかもしれないなあ。例えば、播種や収穫などで多くの人手を必要とする時期などもあるし、とにかく農業を営むためには人手が必要だという作業が多いですからね。

小池 ええ。農家の人たちは人手が必要な作業を手伝ってもらえることで、「とても助かっている」と口にされる人たちが多いです。

布施 なるほど。それが「農福連携」っていうやつなんですね。

小池 「施設外就労」は、利用者の人たちが出来る仕事の選択肢を増やすことができますし、彼らの賃金上がる可能性もあります。また、地域の人たちの役にも立つという、理想的な就労形態であると思っています。

布施 それって、さっき高江さんが言っておられた、「地域に根差した活動」には打ってつけな形でもあるわけだ。

高江 そうですね。

阿由葉 そこで栽培された野菜などは、ナイスハートバザールで販売できるので、イベントをより大きくして長く続けたいと思います。

布施 色々面白い話が聞きました。ありがとうございました。



## ALL ABOUT MELDIA

メルディアとは、「メダル」を意味する英語の「MEDAL(メダル)」とイタリア語の「MEDAGLIA(メダリア)」を合わせた造語となっており、終の棲家を手に入れる喜びを「栄光に輝くメダルを手に入れるような喜び」に見立てています。誰しも人生は一度しかないものです。

その、一度限りの人生の夢の実現を、メルディアグループの住宅をお求めになるお客様と同じように、障がいのある人、経済的に恵まれない人、多様性のある多くの人たちの人生においても、「夢」を実現していただくための一助となれることを目標に、これからも当財団の社会貢献事業を進めて参ります。

### ■ 財団概要

名称 一般財団法人メルディア  
(英文名: General Foundational Juridical Person MELDIA)

設立者 小池信三

設立日 2017年5月23日

所在地 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F

電話 03-5381-3213

URL <https://meldia.org/>

MAIL [org@gf-meldia.com](mailto:org@gf-meldia.com)

MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



イベントに出品されたものを実際に見せてもらったが、どれも素晴らしい商品ばかり。生産者と購入者のお互いの顔が見えるイベントって良いなあ。(布施博)

取材・布施博

## 「地域に根差した活動」

自分が暮らす地域や地元のために、と努力をしたり、そのための活動をするには、障がいのある人たちでも俺たちでも同じ。

「地域に根差す」とは、地元にも利益をもたらすことを念頭にした行動である以前に、自分自身がその社会に参加できているという証でもある、と言うと簡単だが、実はそれを実践するのはとても難しいことだと思ふ。

作業所で作られた商品を販売するイベントというのは、思っていたよりずっと奥が深い。様々な思慮と目標があって開催されているのだと知り、より興味が湧いた。これから先も、今回のようなイベントが開催され続けるよう願う。

■取材協力/社会福祉法人 全国社会福祉協議会、全国社会就労センター、特定非営利活動法人 日本セルフセンター、特定非営利活動法人 長野県セルフセンター協議会  
■SPECIAL THANKS / 社会福祉法人 足利むつみ会、阿由葉洋平  
※順不同/敬称略



日本ブラインドサッカー協会事業戦略部  
高橋めぐみさん  
Megumi Takahashi



### 実は強豪国だった日本 女子ブラインドサッカー

10月13日、今秋で最も気温の低い土曜日の午後、東京都足立区にある帝京科学大学の屋外グラウンドでは、複数の女性アスリートたちがゴールのような形のアイマスクをして、前が全く見えないにも関わらず、鈴の音がするサッカーボールを追って、汗を流していた。

この日行われていたのは、ブラインドサッカーの女子日本代表による強化合宿だ。

「来年春に開催される国際大会に参加する予定で、それに備えて月1回の合宿を重ねています」

と説明してくれるのは、NPO法人日本ブラ



間近で凄さに遭遇！

# ブラインドサッカー 女子日本代表が行う 強化合宿を直撃取材。



特定非営利活動法人  
日本ブラインドサッカー協会  
東京都新宿区

インドサッカー協会（JBFA）事業戦略部の高橋めぐみさん。練習の様々を見学させてもらう前に、そもそもブラインドサッカーとはどういうものか、基本から教えて頂いた。

「ピッチのサイズは40m×20mで、フットサル（※5人制のミニサッカー）を基にルールが考案されています。そして競技には、ブラインドサッカーとロービジョンフットサルの2種類があります」

続く説明によれば、視覚障がい者スポーツにおいては、「見えにくい状態」は3つのカテゴリーに分けられているという。全盲から光覚（※光が分かる）までのB1、矯正後の診断で視力が0.03まで、ないし、視野5度までのB2、同じく0.1、20度までのB3の3つだ。

ブラインドサッカーはこのB1カテゴリーの視覚障がい者が行うもので、健常者も混ざるが、いずれにせよアイマスクをして行われるので、一言で言えば、全盲の状態プレーするサッカーと言えは分かりやすいだろう。プレー人数もフットサルと同様、5対5で行われるが、ゴールキーパーは暗視者が弱視の人が務め、アイマスクはしない。また、相手のゴール裏にはガイド（またはコーラーと呼ばれる）がいて、様々な指示を飛ばす役割を担う。また、両サイドが腰と胸の間ほどの高さのフェンスに囲まれているのも大きな違いだ。

「通常、人間が行動するにあたっては、情報の



鈴のような音だけを頼りにボールを捌く様は凄いとしか言えない。アイマスクとヘッドギアをつけての練習風景。

2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会を控え、パラスポーツの中でも最近注目を集めているのがブラインドサッカー。その女子日本代表の強化合宿が、来年春に開催される国際大会に向けて月に1回、都内で行われていると聞き、さっそく取材に伺った。

通常のサッカーと異なり、選手みんながアイマスクを着用して行われる「ブラインドサッカー」。その様子は、私たちにとっては驚くばかりだった。

合宿での練習の様子やブラインドサッカーの魅力、女子日本代表の現状などを聞いた。

8割を視覚で得ているとされています。その視覚を閉じた状態でプレーするので、技術だけではなく音と声によるコミュニケーションが重要になります」

ゆえに特別なルールも存在する。まず、ボールの中には鈴のようなものが入っており、転がるとシャリシャリといった音がする。また、目が見えない状態でプレーするので、衝突の危険性がある。だから、フィールドプレーヤーはボールを持ったプレーヤーに向かっていく時には「ホイ！」と声を出さなければならない。それでも危険は付きものなので、国内ルールに限ってではあるが、保護用のヘッドギアの装着が義務付けられている。細かいルールについて記せばきりがなが、おおよそはこういったルールで争





られる。  
ブラインドサッカーは80年代初頭にルールが統合され、ヨーロッパや南米を中心に広がったという。90年から国際大会が開催され、より整備される中、01年に日本にも国際ルールが上陸した。98年に世界選手権が2年ごとに開催され、06年にアテネパラリンピックで正式競技となった。日本は06年のアルゼンチン大会から世界選手権に参加するようになり、14年に行われた第6回大会は東京・代々木競技場で行われ、なんと6位という好成績を残している。



国内の普及状況としては、国際ルールが上陸した01年の11月にJBF Aの前身組織の発足会が大阪で開催され、急速に普及、03年3月に早くも全国大会が行われた。競技人口は約400人と言われ、国内チームは15前後、登録は大会ごとで前後し、休部するチームもあると言っから、やはり障がい者がスポーツを継続して行える環境作りの難しさが伺えるものの、北日本、東日本、西日本の3地域でリーグ戦が争われているというからなかなか活発だ。ちなみにロービジョンフットサルで



岡など全国各地から集まっている。  
見学を始めた当初は、様々なプレーの確認を行っているのだろうか、ピッチのそこかしこで声を掛けながらのパス交換などが行われていた。やがて、より実践的な試合形式に近いトレーニングが始まった。

最近ではテレビなどを通じて、プレーが行われている光景を見たことはあったものの、身近で見るとは初めてのこと、やはり不思議な光景と映る。同時に、その凄さに舌を巻く。まず健常者の感覚だったら360度の方向性や空間識をすぐに失ってしまうだろう。ところが選手たちが大きく方向性を失うことはない。優れたアスリートがそうであるように、ここに集まった選手たちの全員には非凡な能力が備わっているのだろことしか思えない。

トレーニング終わりに、選手や監督に話を聞いた。中心選手の一人、ブラインドサッカー歴9年の齋藤舞香選手の目標は高い。

「女子代表として国際大会で世界一を取ったので、これからはそれ以上に世界を引っ張っていく意識で、男子にも負けないフィジカルを身に付けたり、自分たちがどう戦っていくかをさらに磨いていくことが目標です」

さらに、小さな女の子たちに教える場もあるのだ、彼女たちに目指してもらえようような存在になりたいとも語る。

監督は、健常者で初代男子代表のゴールキーパーを務めた村上重雄氏で、ブラインドサッ



村上重雄 監督  
Shigeo Murakami



齋藤舞香 選手  
Maika Saitou



特定非営利法人日本ブラインドサッカー協会  
東京都新宿区百人町2-21-27 ペアーズビル3F  
TEL / 03-6908-8907  
info@b-soccer.jp  
http://supoiku.b-soccer.jp/



(編集部)

カーの普及と啓蒙にも関わる。  
「女子のカテゴリーは始まったばかり。国内外で仲間を増やして競技を広めていくことが目標です」ただ、競技に参加したい当事者がどこにいるか知るのが難しいのが現状だと言っ。  
「確かに今はいつでもどこでもできる環境ではないですが、逆に言えば、身近に1人でも仲間や理解者がいればお金もかけずに楽しめるものです。ですからやはり理解者を増やすのが重要だと思いますね」  
齋藤選手も待つてばかりいるのではなく、自らアクションを起こすことが必要だと述べた。周囲の理解者を含め、参加者の意識次第では障がい者スポーツの環境は徐々に広がりつつあるよっだ。

### パイオニアだけに 夢は国内外問わず広がる

さて、女子日本代表の合宿の様だ。現在7名いる代表選手のうち、この日は6名が参加していた。所属チームも埼玉、つくば、仙台、福  
は東日本リーグが行われているそっだ。  
そして20年に行われる東京オリ・パラリンピック、日本は開催国として初出場することになっているので、その活躍が期待されるところだ。  
だが、この日に行われていたのは、女子代表の合宿だ。女子だけに限ってみれば、その歴史はまだ浅い。  
「これまでは女子選手は男子選手に交じってプレーしなければいけない状況にありましたが、やっと昨年の4月に女子単独の代表チームを発足することができました」  
まだ1年と半年しか経っていない。ところが、日本のレベルはとても高いよっだ。  
「結成からわずか1か月の5月に行われた国際大会で優勝を飾り、今年2月にさいたま市で開催されたカップ戦では、強豪国であるアルゼンチン代表を相手に見事勝利を上げました。男子選手に比べてまだまだ国際試合の機会は限られていますが、今後の世界的普及も期待されるなか、JBF Aとしても様々な事に取り組んでいきたいと考えています」

初イベント開催



‘18.9.26  
BX hall

in tokyo

読んでそのまま、親子の愛を歌った曲だ。この曲を、手話を交えながら水越さんは歌った。水越さんと言えば、本誌とは切っても切り離せない。本誌創刊時から「M s i z e / はじまり」のページを連載して頂いている。そのページを読めば分かるが、水越さんはダウン症のあるお子さんをシングルマザーとして育てている。そして自身の生活を踏まえ、「障がい」について考え、訴えかける活動も行っている。本イベントの幕を開けるに相応しい演者と曲であると言えるだろう。

この日行われたイベントは、本誌を発行する一般財団法人メルディアが開催した初イベント、「メルディアカフェ」。財団はこれまで、障がいのある人を支援する活動と、サッカー等のスポーツを行う児童・青少年を支援する活動などを行ってきた。

僕は あなたの 愛を知ってる 知ってる  
あなたの 子供に生まれて  
神様に感謝しています

9月26日、東京都文京区にある三和シャッター本社ビル2階のBXホール内に、シングルソングライターの水越けいこさんの歌声がしっとりと響き渡る。

最初は、自身のアルバム「僕の気持ち」から、そのタイトル曲が歌われた。そのサビの部分。

本誌「月刊メルディア」の発行が、その活動の分かりやすい1例だが、前号が12号目に当たり、ちょうど1周年を迎えたことになる。

そこで、今後さらなる支援活動を続けていく上では、読者との距離を縮め、支援と理解のネットワークを築く必要がある。その試みの一つとして、今回のイベントが開催されたのだ。

まずは、財団事務局の後藤正善の挨拶があり、イベントの開催が告げられる。そして第一部として、水越さんのライブが始まった。

曲の間に水越さんのトークが挟まれる。簡単な自己紹介があつて、やはりお子さんに障がいがあることも説明される。水越さんが歌うということは、同時に、障がいについて語ることもあるのだ。

さらに歌が続く。往年のヒット曲・「ほほにキスして」、「Too Far Away」の計3曲が歌われた。



MELDIA GROUP / 三栄建築設計  
一般財団法人メルディア事務局  
後藤 正善 Masayoshi Gotou



一般財団法人メルディア主催

# MELDIA CAFE

2018  
Autumn  
issue



## 本財団主催の「MELDIA Cafe」開催 第1回

多くの読者の皆様方にご来場頂き盛り上がる

本誌も創刊号から数えて早13号目。とにもかくにも、1年以上発行を続けられたこととなります。読者の皆さまを始め、これまでの取材にご協力いただいた福祉関係者の皆さまに対しては感謝の念に堪えません。一般財団法人メルディアは、基本理念に忠実に、この先も障がいのある人とそのご家族を支援する活動について弛むことなく、さらなる活動を模索していく所存です。一般財団法人メルディアと本誌の活動の一環として、より読者の皆様方との距離を縮めるべく、「MELDIA Cafe」のイベントを開催しました。ここではこの「メルディアカフェ」の模様についてご報告させて頂きたいと思っております。







# はじまり

△水越けいこ連載▽

13



## シンガーソングライター 水越けいこ

1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の情報番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後、「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子・麗良と2人暮らしをしながら音楽活動と公演活動を続けている。

### 初めての工賃とプレゼント 忘れられないエピソード

ダウン症を持つ息子・麗良(れいら)は、「就労移行支援事業所」に通っています。その事業所での工賃は、一ヶ月分を毎月15日に頂きます。各作業で頂くその工賃は、決して多い金額ではありませんが、彼はそのお金の中から、欲しいDVDを買ったり、交通機関ICカードのチャージ費用に充てたりしているようです。たまには貯金もしているようですが。

麗良が初めて工賃を頂いて来た時のエピソードをお話ししましょう。工賃、言わば「お給料」を初めて貰った彼は、「ママとママの友だちにプレゼントを買いたい」と言いました。「ママに」と、私にだけかと思ったり、「ママとママの友だち」と彼は言いました。その「友だち」は、昔から彼に優し



く接してくれる人です。彼の申し出はとても嬉しく、胸を熱くしましたが、「初めて自分で働いて得た貴重なお金を遣わせてしまっても良いのだろうか？」と逡巡し、「自分の好きな物を買えばいいのに」と伝えました。しかし、彼の気持ちが揺らぐことは無かったようで、結局はプレゼントを買いにショッピングモールへと2人で出か

けることになりました。

私はショッピングモールに着いてからも、何度も「自分で欲しい物を買えばいいんだよ」と彼に言いましたが、初めて自分で自由に遣えるお金を手にしたことが余程嬉しかったのでしょ。ううん、ママたちに買っ！」と嬉しそうに返すばかりでした。

彼が私に買ってくれたのがマフラー型のタオルです。私は朝にウォーキングをすることを日課にしていたので、その時に使えるようにと、これを選んでくれたに違いありません。私の友だちには色違いの物を選んでくれました。

彼の気持ちが嬉しくて、勿体なくて、泣きそうになりました。でも、その時に一番喜んでいたのは、私でも私の友だちでもなく、彼でした。とても幸せな気持ちに浸ることができた、今でも忘れられない一日になりました。大切にですね！

### 長く交流のある麗良の恩師 素敵な先生との「はじまり」

麗良との生活や教育を通じて、今までに大勢の素敵な人たちに会うことができました。ベビシッターさんや、現在、彼が通所している「就労移行支援所」の指導員さんなど。たくさんのお会いがあった、多くの人たちの暖かい心に触れて、そのお蔭で彼も私も今日まで歩んで来られたと思います。

これまでに会った人たちの中から一人、後に大親友となった友人・藤井先生(仮名)とのお話を書いてみようと思います。

麗良が中学校に通っている頃のこと。彼が学校で起きた話をする時に「藤井先生」という名前を

よく口にしました。当時、藤井先生は彼のクラスのアシスタントティーチャーをされていた人でした。

ある時、麗良が学校からクラスメートや先生方と一緒に写っている写真を持って帰ったことがありました。私は、その写真を見るやいなや、「藤井先生」がどの人なのか一瞬で分かりました。「この人が藤井先生でしょうか？」と彼に聞くと「ピンポイント」と答えました。華奢で可憐な感じ、しかも見るからに優しい笑顔のお姉さん。それが藤井先生でした。はいはい、分かります。母は、分かります。

しばらくして、学校で藤井先生にお会いする機会がありました。保護者会の時のこと、「麗良くんの音楽好きはお母さま譲りだったのですね」と、藤井先生から声を掛けて頂きました。お話をしているうちに「コンサートがあったら伺いますね」と仰るので、「ぜひ！ボーイフレンドもご一緒にどうぞ」と冗談っぽく言ったら、「私、娘が3人もいる母親なんですよ」と言われて驚きました。私の勝手なイメージですが、どう見ても独身の女性にしか思えませんでした。

その頃はまだアシスタントティーチャーだった藤井先生も、今では中学校の教員になられました。生徒の話真剣に聞いてあげることのできる、人気の先生となっています。藤井先生との交流は麗良が卒業してからも続いています。藤井先生を始め、旦那さん、お嬢さんたちとも、家族

### 水越けいこライブ情報

2018年12月9日(日)

会場：江古田マーキー

時間：14:00 開場 / 14:30 開演

料金：5,500円(店頭前売)

6,000円(当日)

※ドリンク代別途

問合せ：TEL / 03-3994-2948

※17:00～電話対応可





Shuhei Nagano

Masayoshi Gotou

経験と研究を基に障がい者の就職活動を支援  
独自のトレーニングシステムを提供する施設



永野 周平さん × 後藤 正善

ウェルビー株式会社 就労移行支援事業部  
就労移行支援部 エリアマネージャー

MELDIA GROUP / 三栄建築設計  
一般財団法人メルディア事務局

今回の対談を行うのは、障がい者就職支援と児童発達支援などの事業を行うウェルビー株式会社の就労移行支援部エリアマネージャー・永野周平氏と、当誌の発行元である一般財団法人メルディアの事務局・後藤正善の2人。障がい者就職支援と就労移行支援の最前線にいる永野氏。一方の後藤は自身も障がいを持ちながら、障がい者雇用の担当者、就労定着の支援者としての経験がある。障がいのある人の就労を支援する企業の担当者、それと同様の経験を持つ当誌発行元の担当者という2名の対談で、障がいのある人に対するサービス事業の在り方を改めて考えてみたい。

後藤 こちらでは実際にどのような支援事業や訓練をされているか教えてください。

永野 順を追って言いますと、障がいのある人の中には、「週5日間、決まった時間に決まった場所へ行く」というような段階で躓いてしまう人もいます。当然、それは障がいの種類によっても変わりますが、まずは利用者の人たちには「ウェルビーに来る」というのに慣れて頂くことから始めて貰っています。

後藤 規則正しく生活するというのには必要なプロセスのひとつですよね。

永野 そうです。そして訓練内容ですが、大まかに言うとパソコンの操作と、人とのコミュニケーションです。その2つがあれば、今の時代では大抵の仕事をごこなすことが出来ますから。

後藤 パソコンの訓練については比較的簡単にイメージできますが、コミュニケーションの訓練というのは、実際にどういうことをされているのでしょうか？

永野 例えば、発達障がいのある人と他人とのコミュニケーションが苦手な場合もあります。そういった人の為に、利用者の人たちで20人程度のグループを作ります。そこで行うカリキュラムの中で、お互いにコミュニケーションを取ってもらいます。

後藤 「他人とコミュニケーションを取る・取る」というのは重要なことですよね。

永野 私はそこが最も重要だと思っています。

後藤 具体的にはどのように訓練を？

永野 利用者の人たちにはそのグループ内では「コミュニケーションに失敗しても良い場である」として説明しています。上手くコミュニケーションが取れなかった場合には、私たち職員がその原因や理由を分析して、「話す時の距離感が近かった・遠かった」、「貴方が話しかけたタイミングでは相手がこういう状況だった」などと改善点をアドバイスします。

後藤 アドバイスをする中で、実際にコミュニケーションの能力が向上する、と？

永野 もちろん、一般的な「コミュニケーション能力」という意味での向上は難しいです。そもそも、コミュニケーションとは難しいものでありますし、就労移行支援の利用期間も2年と限られているので、簡単にはいきません。

後藤 そうですよね。

永野 ただ、職場や日常生活の場面で起こり得ることに對する「対処法を教える」という感じにすれば、障がいがあっても覚えることができ人は多いです。「こういう時はこう返事をしたら良い」、「こんな時はこう質問をしたら良い」というように、利用者の人たちにはシーンごとに対処法を覚えていくって貰います。

後藤 なるほど。

永野 実は、就労移行支援から就職をするにあたって最も重要なことは、自身の障がいを自分で説明できるようにすることなんです。その障



ウェルビー株式会社  
東京都中央区銀座2-3-6 銀座並木通りビル7F  
TEL / 0120-655-773  
<https://www.welbe.co.jp/>



がいがあることによつて起こり得る問題や留意して欲しい点などを企業側に伝えることができからです。「それが起きた際に会社側はこういう配慮をすれば大丈夫」だとか、互いに理解をすれば、業務上で発生する可能性がある問題には対処が可能になるはずと考えます。

後藤 起こり得るシーンごとに分析して、受け答えのテンプレートを覚えて貰うと？

永野 そうです。その人の苦手な部分をその上司や先輩の人たちにフォローしてもらいやすくするんです。でも、それは障がいのある人と健全であるかは関係なく、誰でも同じことだと思っただけですね。

後藤 それはその通りですね。

Masayoshi Gotou



後藤 現在の障がいを取り巻く環境についてはどのような意見をお持ちですか？

永野 これは私の私見ですが、日々着実に良くなっていると思います。

後藤 ここ10年で法の改正などがあって、障がいを取り巻く環境は大きく変わって来た感じがします。でも、その着実に良くなっている状況を知らない人たちが多いですよ。

永野 それが問題です。例えば最近では、「就労移行支援」だけでなく「就労定着支援」も始まりました。障がいのある人が就職をした後、その職場で長く働くための支援です。就労移行支援などを利用して就職した人が、その就職の半年後から3年間、そのサービスを利用できるんです。

永野 ええ、その通りです。

後藤 実際に、障がいのある人がその企業の戦力として起用されることも少なくないですよ。

永野 はい。それは先ほども少し言いましたが、障がい者側と雇用する側の相互理解が出来てきたことも大きな要因だと思います。障がいのある人たちの中には、「少しの配慮さえあれば仕事の能力は高い」という人が大勢います。それを雇用側の人たちが理解してきたことで、障がい者雇用の間口が大幅に広がってきました。それによって、障がいのある人たちは仕事

事を選択肢が広がり、より自分の特性に合った仕事を探ることが出来るようになった。活躍のチャンスが更に広がっているのではないかと思います。

後藤 雇用の幅が広がったことで、障がいのある人たちの労働環境が総合的に良くなっているということですね。

永野 例えば、「単



こつという情報は確実に発信されているはずなのに、その情報を必要とする人々には届いていません。情報の受信環境など、まだまだ改善すべき点があると思います。

後藤 私の経験から考えてみると、自分が何かしらの支援を受けられる状況にあったとしても、実際には「何をどうすれば良いのか分からない」という感覚は頷けます。

永野 自治体によっては支援に関する相談の窓口もありますが、果たして障がいのある人たちが窓口があるのを知っているか？そこを利用するか？と考えると難しいと思います。

後藤 例えば誰かが、ウェルビーさんのような就労移行支援の施設の利用を希望した場合、ど

純作業の繰り返しですが障がい者雇用だ」と言ってしまったとしたら、当事業所で訓練を受ける人はもつと少なかったでしょう。仕事に対する夢を持ち難いでしょうから。

後藤 そうかもしれません。

永野 だからこそ、情報がそれを必要としている人たちに届かないという状況には苦言を呈さざるを得ないんです。

後藤 最後に、本誌を通じて読者の人たちに伝えたいことはありますか？

永野 私たち福祉関係の従事者の事になります。障がいが広がり、その人々に対する仕事の期待値が上がったことで、もちろん賃金もそれに

うという点で選ぶのが良いと思いますか？

永野 まず重要なのは、就職数や定職率など、具体的な実績を公表していることです。その数値が高ければ良いという意味ではなくて、例えば数字が低くても、その理由が「重度の障がいのある人々を積極的に受け入れていているから」といった理由があるのかも知れないんです。

後藤 そういふ見方もあるんですね。

永野 後は、気になった事業所へは実際に見学に行ってみて欲しいんです。そこにいるスタッフと自分が「合うか・合わないか」は、これから最大2年間その事業所を利用すると考えたら非常に大きなポイントになります。

後藤 見学は簡単にできるものですか？

永野 はい。うちの事業所だと電話で予約を頂くだけで見学が可能となります。

後藤 いろいろなサービスがあるという事すら知らないで、それを使わないというのは非常に勿体ないですよ。

永野 良くなった点のもう一方は、障がい者雇用の仕事の幅が大きく広がったことですね。

後藤 以前だと障がいのある人の仕事って、単純作業の繰り返しイメージでしたが、私も今は大きく変わって来ていると思います。例えば、知的障がいのある人が、先方と自分でアポイントメントを取って、仕事を受注して納品する。それを上司に報告する、といった仕事をこなす人なども増えて来ていると感じます。

伴って上がってきています。

後藤 確かにそうですね。

永野 就労支援を運営する側もそれをしっかりと理解して、訓練や支援のクオリティを上げて行かねばなりません。私たちは、そういった責任を感じながら運営していかなければならないと思っています。今、福祉のサービスは多様性に富んできました。私たちのように、福祉を事業とする者も利用者の人たちも、現状をしっかりと把握して、正しくサービスを運用していけたらいいのかなと思います。

「近年、障がいのある人に対する各種サービスが向上しているのので、それを上手に利用して自分に合った仕事を見付けて欲しい」と語る永野氏。



Shuhei Nagano



# つむぐ

〜こえをきく〜

この取材の日、私は対談相手とお昼前には会う約束でした。しかし前の要件に時間がかかり、待ち合わせに一時遅れてしまいました。私はバツが悪くなりながら予定の場所へ行くと、対談相手の方が「よろしくお願ひしまーす！」と屈託のない笑顔と明るい声で出迎えてくれました。

約束の時間に少し遅れてしまった私を、何ら咎める訳もなく、屈託のない笑顔で迎えてくれたのが今回の対談者となった「奈央子さん」でした。

彼女の素敵な笑みにつられて笑顔になった私  
が、「遅くなりました」と言うと、彼女は先にも増した満面の笑みを浮かべて、「良いんですよ」と間髪を入れずに返してくれました。

彼女が発する言葉、表情、仕草のどれもが、「こ



れから面白いことが始まるよ」と言わんばかりの期待感を抱かせるに十分なほどでした。

奈央子さんの喋り方は、優しいのに快活で、私は彼女の話を聞いているだけでとても気持ち良かったのを覚えています。

奈央子さんの仕事はパンの販売員だそうです。販売の仕事というのは、正に奈央子さんに打ってつけの職種だと思いました。

奈央子さんに好きなパンを聞いてみると、「くるみデニッシュ」だと言い、その話を聞いているうちに私もそれが食べたくなってしまいました。彼女が「くるみデニッシュ」が大好きだということが、その喋り方、仕草、表情などから如実に現れていたからだろうと思いました。

また、奈央子さんが働くお店に来店されるお客さんたちの事を一人ずつ凄く良く記憶していて、例えばあるお客さんが、新しい服や財布を身に付けていたとすれば、その変化にすぐ気づき、その話で盛り上がることもあるのだそう。

を掛けて耳で聴いて、時には2年ほどの時間を掛けて曲を覚えるのだそう。それでも、今では「エリーゼのために」などの割と難しい曲も弾けるようになったといえます。

そんな話も、奈央子さんは「大変だった」とは言いますが、そこには決して「同情して欲しい」というようなニュアンスが一切含まれていないように私には聞こえました。

奈央子さんとなら、他愛のない話であってもずっと続けていられる気がしました。例えば、私が天気の話彼女に振った時も、楽しそうにその話に答えてくれました。私が「そうなんだ」というような簡単な相槌を打った時でも、「そうなんですよ！」と満面の笑みをたたえながら楽しんで返してくれました。

対談の最中、奈央子さん、お母さま、お父さま、そして私の4人で話をする時間もありませんでしたが、どんな話題に対しても賑やかで話題が途切れることはなく、いつも笑いに溢れていました。

私は、奈央子さんから頼もしさに近いものを感じていました。「周囲を明るくするリーダー」とでも例えれば良いのでしょうか。

気が付けば予定の時間となりました。「他人のことをあまり気にしない」と標榜している私ですが、実は私も人と話すのが大好きなんだと再認識させてくれた対談でもありました。

奈央子さんが語るエピソードと、彼女が醸し出す雰囲気、彼女が素晴らしい販売員としてパンを売っている姿が目につかびました。

以前の奈央子さんは、内職のような仕事を8年、パンの製造を5年と、いずれも長く続けたそうです。そこから現在のパンの販売員になるまでの経緯を、彼女本人とお母さまにお聞きしました。中には、とても大変だったであろうと容易に想像できるようなエピソードもありました。そんな話でさえも、奈央子さんは暗そうには話しません。私にはむしろ楽しかったことだったかのようにも聞こえてきました。

現在のパンの販売員の仕事に就いてから、彼女には大きく変わった所があるといえます。

それは、体調を崩しがちだった彼女が、風邪を引かなくなったこと。就寝時間の確保、その日の気温に合わせた服装の調節などを、より丁寧に言うようになったこと、だそうです。このお陰で、「今では体調を崩して仕事を休むことが少なくなった」のだといえます。

その話を聞いて感動しました。自分に合っている「何か」が見付ければ、人は意識の部分から自然と変わって行くのだと。

言葉では分かっていることですが、職種や仕事の内容などが本人の特性に合っていることがとても大切であると再認識できました。

奈央子さんはピアノが好きなのだと言いますが、楽譜を上手く読むことができず、長い時間



取材・文 渡邊 希望 俳優・脚本家・演出家

1988年神奈川県生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年に「劇団ショートホープ」を立ち上げる。俳優・脚本家だけでなく、演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。ここ1年で3本の脚本&演出をこなし、その舞台はいずれも好評と人気を博している。



## 前に進むカエル 矢野くるみ



中高生の頃、わたしは母校からほど近い古びたビルの3階によく顔をだしていた。3階の一室には障がいのある人たちが10人ほどと、教員が2〜3人。そして、わたしと同じ学校の生徒がそれと同じくらしい数だけ集まっていた。

その部屋では「交流」が隔週で行われ、季節にあったテーマの作業をしていた。「交流」といっても同じテーブルで作業をしているだけで、なにか障がいのある人の作業を手助けしたわけでもないし、おしゃべりらしいおしゃべりもした覚えがない。

実はわたしがこの施設へボランティアに行き始めた理由は、当時仲の良かった友達に誘われたからだった。つまりわたしは、この活動自体に対して何か大きな意図や興味があつたわけではなかったのだ。相手である友人が活動を休むというならわたしも行かない。この活動は私にとってその程度のものであった。

どちらかというとわたしは友人である彼女の方が気になっていたのだ。並々ならぬ創作意欲があり、社会に対して広い間口を持つ彼女のこと

が。彼女は、施設で過ごす人たちにとても優しく接しようとしていたわたしとは違って、壁を感じさせない振る舞いを彼らにしていた。

障がいのある彼らもその友人とだけは苗字を呼び捨てで呼び合っていた。ただ優しくすることだけが障がいのある人へのアプローチではないんだな」と感心した覚えがある。

わたしははじめて障がいのある人と関わる機会をもったのは小学一年生のとき。耳が不自由だった汐海ちゃんという女の子と同じクラスになった時だった。特別学級にいれたくないという彼女の二両親の考えで、その子とは3年間、同じクラスで学校生活を送っていた。

記憶の中の汐海ちゃんは、耳の障がいがある原因なのかもしれないが、しかも面の印象が強い。いつも怒っているように思えて、出会った当初、わたしは正直なところ苦手な相手だった。しかしその印象はある時を境にガラリと変わっていった。

それはわたしが小学3年生になり、授業のカリキュラムに書道が組み込まれてから。左利きのわたしは、

書道のルールに従って右手で筆を持って下手な字を書いた。教室の後ろに貼り出されるのが本場に恥ずかしくなかった。

ある日の書道の授業の後、いつも通り教室の後ろにクラスのみんなの半紙が貼り出された。わたしは驚いた。わたしの隣が汐海ちゃんの書だったのだが、その書はクラスで一番と言っていた程、彼女は達筆だったのだ。

わたしは「字が綺麗だね」と汐海ちゃんに話しかけた。すると彼女はいつものしかめっ面を綻ばせ、「可愛らしい笑顔で自分のことを指差しながら「習字、習ってるから」と答えた。

それからわたしは、書道の時間以外でもよく汐海ちゃんの字を褒めるようになった。自分も字を綺麗に書けるようになりたいと思った。

3年生の終わりにわたしは引越が決まり、汐海ちゃんとは家が遠くなる事になった。その折にも、汐海ちゃんはわたしに字を送ってくれた。相変わらずの綺麗な字で「仲良くしてくれてありがとう」と。

小学生時分のわたしにとって、汐海ちゃんは笑顔が可愛く、字が綺麗

## 席が近いと仲が良くて 席が遠いと良く知らない

右ページに掲載した文章は、女優の「矢野くるみ」さんが書いたエッセイです。彼女とは、18年9月に私が脚本・演出を担当した舞台「ライク・ア・チャイルド」に出演してもらったことがきっかけで知り合いました。

その舞台の稽古中に、私は矢野さんには障がいのある人との想い出があることを知りました。彼女に残っていた記憶はどこか切なく、私には、誰もが抱いたことがある感情がそこに内包されているエピソードであるように思えて、本人にお願いし、文章にしてもらいました。

矢野さんのエッセイに登場する「わたし」の障がいに対する気持ちは、作中ではほとんど変化しません。障がいと触れ合う理由も疎遠になる理由も希薄です。それでも「わたし」は障がいのある人との付き合い方が劇的に変わっていきます。私はそれが面白いと思えました。

そもそも、人と人との仲の良し悪しや好き嫌いとは何なのだろうと考

えました。多くの人は、学生だった頃に最初に席が近かった人と仲良くなったりします。席が近ければ、その人を知る機会が多くなり、必然的に仲良くなりやすい。言葉にすると当然のことですね。

同じクラスだったとしても、クラスメートとの関係性はその程度で大きく変わってしまうと捉えることもできます。反対に、「人と人とはその程度のことで仲良くなれる」とも。

作中で「わたし」は施設を度々訪れています。学生が自身の学校以外のコミュニティに入っていくことは、ある種の「非日常」と言えます。自分が異質であるように思ったりして、居心地の悪さを感じることも少なくないはずです。

「わたし」が「汐海ちゃん」と出会い、苦手だと思った理由は「しかめっ面」だったから。たったそれだけで、その後の人間関係に大きな影響を与えてしまっています。

それだけ人間関係とは繊細なもの

なのでしょう。作中の「わたし」には共感できる部分がたくさん多いと思います。言ってしまうえば、矢野さんの書いたこのエピソードは「よくある話」なのですから。

私にとって、障がいのある人は「席が遠い人」でした。それがちょっとしきりたきつかけで話をするようになり、今では「よく喋る相手」になりました。これも、よくある話です。

以前にも書きましたが、障がいのある人が持つ「障がいがあるからこそ辿り着けた世界観」に、より多くの人に触れて貰いたいと思っています。これまでの取材でお会いした沢山の方たちが、私にそう思わせてくれました。

「ちょっとしきりたきつかけ」

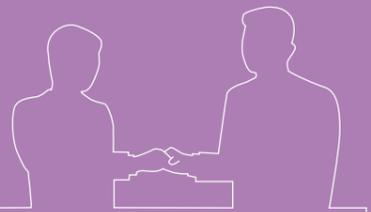
口で言うほど簡単ではないのかも知れません。でも、何をやるにも必要なのは、きつとそれくらいなものです。

(渡邊希望)

いま見えているものと過去に見てきたものを繋ぎ合わせて綴ります。過去は良いことばかりではないけれど、振りかえることでいつでも前進できる自分を見られるように、の想いを込めて。

Kurumi Yano ♡

■矢野くるみ / 1995年生まれ。青山学院大学文学部卒。フリーランスで女優として活動する傍ら執筆にも挑戦する。出演作はNHK Eテレ「シャキーン!」、ハウス食品テレビCMナレーション(BS Dlife)等。



# 障がい者の雇用問題④

企業に求められる「合理的配慮」



表参道パートナーズ法律事務所  
弁護士／安部 晃平

1986年福岡県出身。2012年上智大学法科大学院修了。2013年弁護士登録。2016年より現職にて、中小・ベンチャー企業の労務管理、訴訟を中心に、各種企業法務を取り扱う。表参道パートナーズ法律事務所所属。

## 障がい者への合理的な配慮 企業に求められる対応は？

1 「私は聴覚に障がいがあるのですが、A社の採用面接は全て口頭で行われるため、十分にコミュニケーションがとれませんでした」

2 「私は聴覚に障がいがあるのですが、在籍しているB社では業務連絡が全て口頭で行われるため、十分に理解できません」

このような企業への対応にはどのような問題があるのでしょうか。今回は、障害者雇用促進法の重要な規定の一つである、企業の合理的配慮義務についてみてみましょう。

障害者雇用促進法第36条の2は、「事業主は、労働者の募集及び採用について、障害者と障害者でない者との均等な機会の確保の支障となっていない事情を改善するため、労働者の募集及び採用に当たり障害者からの申出により当該障害者の障害の特性に配慮した必要な措置を講じなければならない」として、募集と採用時において、企業が障がいのある人に対して合理的な配慮をすべき義務を定めています。

また、同法第36条の3は、「事業主は、障害者である労働者について、障害者でない労働者との均等な待遇の確保又は障害者である労働者の有する能力の有効な発揮の支障となっていない事情を改善するため、その雇用する障害者である労働者の障害の特性に配慮した職務の円滑な遂行に必要な施設の整備、援助を行う者の配置その他の必要な措置を講じなければならない」として、採用

後においても、企業が障がいのある人に対して合理的な配慮をすべき義務を定めています。  
上記はどちらも企業が障がいのある人に対して合理的な配慮をすべき義務を規定したものです。募集・採用時の合理的配慮については、障がいがある人からの「申出」があった場合に限り必要になるという区別がされています。

ここでは、ここでいう「障害の特性に配慮した必要な措置」とはどのような内容のものなのでしょうか。これを考える上では、厚生労働省が公表している「合理的配慮指針」や「障害者雇用促進法に基づく障害者差別禁止・合理的配慮に関するQ&A(第2版)」(以下「Q&A」といいます)が参考になります。

合理的配慮指針によれば、「合理的配慮は、個々の事情を有する障害者と事業主との相互理解の中で提供されるべき性質のもの」であり、その手前(Q&A/4.1.4)。  
冒頭の事例①・②のいずれも、例えば、障がいのある人から手話ができる方を常同席させることが求められた場合、それが企業にとって過重な負担であると判断したとしても、筆談による面接やメールによる業務連絡等、過重な負担にならない範囲で、何らかの措置を講じる必要があります。

結局のところ、どのような措置が合理的配慮として必要かつ十分といえるかは個々の事情を踏まえて判断する他ありません。もともと、何の手がかりもないと対応に困りますが、厚生労働省が「合理的配慮指針事例集(※)」として、障がいの類型ごとに実際の企業において講じられた措置の具体的な事例を公表していますので、参考してみてください。

また何よりも、障がいのある人と企業が話し合いを重ね、障がいのある人への理解を深めていただきたいと思います。

相手のことを知り、何が必要か考えよう。



表参道パートナーズ法律事務所  
東京都港区南青山4-17-33 グランカーサ南青山  
TEL: 03-16804-1371



<http://omt-partners.jp/>

※合理的配慮指針事例集(第3版)／厚生労働省  
<https://www.mhlw.go.jp/tenji/dl/file13-05.pdf>



続きとして「合理的配慮に係る措置の内容に関する話し合い」が行うこととされています。

このように、合理的配慮は個々の事情により様々であることから、必要な措置の「内容」よりも、必要な措置を決定するまでの「手続き」が重視されていると考えられます。

冒頭の事例①では、応募者の人から、聴覚に障がいがあるため面接で配慮をしてもらいたいという申出があれば、企業としては、応募者の人からのような措置が必要かを話し合い、自社で講じることができると決定すべきでしょう。

また、事例②では、従業員からの申出がなくとも、業務連絡をメールや文章の掲示等でも行う等、必要な措置を話し合い、具体的な措置を決定すべきでしょう。



## 合理的配慮の限界は？ 「過重な負担」となる場合

それでは、双方による話し合いの結果、一方の障がいのある人が具体的な措置を求めた場合、他方の企業としては必ずその措置を講じなければなら

ないのでしょうか。

障害者雇用促進法第36条の2と同条の3はいずれも、企業の合理的配慮義務を定めた冒頭の規定に続いて、「ただし、事業主に対して過重な負担を及ぼすこととなるときは、この限りでない」と規定しています。

障がいのある人が企業側に求めた具体的な措置が、その企業に「過重な負担」を及ぼす場合は、その具体措置を講じる必要はないということになります。

合理的配慮指針によれば、「過重な負担」かどうかは、事業活動への影響の程度、実現困難度、費用・負担の程度、企業の規模、企業の財務状況、公的支援の有無を総合的に勘案しながら個別に判断するとされています。

例えば、冒頭の事例①において、一般論でいえば、大企業など財務に余力のある企業は、手話ができる方を同席させる等の措置を検討する必要があるかも知れませんが、そうでない企業では、筆談で面接を行う等の措置で十分とされるかもしれません。

もともと、企業は、障がいのある人から申し出があった具体的な措置が過重な負担に当たると判断した場合には、何らかの措置を講じなくてもよいのではなく、障がいのある人と話し合い、その意向を十分に尊重した上で、自社の過重な負担にならない範囲で、合理的配慮に係る何らかの措置を講じなければならぬ点に注意が必要となり

各種募集と告知

布施博または大矢真那が取材に向う「訪問先」を募集しています。また、当財団に対するご支援とご協力をお願いを掲載しています。

布施博&大矢真那の訪問先／取材先を募集しています



障がい者を雇用する企業や団体、障がい者施設、学校、場所、スポーツ会場などへ布施博または大矢真那が直接お伺いして取材させていただき、本誌にてご紹介いたします。

■応募条件

障がい者を雇用している(雇用予定を含む)企業や団体、障がい者施設(学校を含む)、障がい者が活躍されているスポーツ団体、スポーツ大会、地域、場所など

■お問い合わせ

下欄にある「一般財団法人メルディア」事務局まで電話またはメールなどにてご連絡ください

※取材に関して費用等は一切かかりません



募集や告知などの情報を無料で掲載しています

一般財団法人メルディアが発行する「月刊メルディア(本誌)」では、障がい者を雇用する企業や団体、各種の養護施設または学校などの募集ことや告知などをP27の情報ページに無料で掲載しています。「障がい者を雇用したい」「障がい者施設で開催するイベントを告知したい」などがありましたら、下記の一般財団法人メルディア事務局までお問合せください。掲載に関しましては情報ページ用の「フォーマット」をご用意してあります。フォーマットに則して広告内容を準備していただく必要があります。掲載基準ならびに掲載フォーマットにつきましては事務局までお問い合わせください。

一般財団法人メルディアの活動方針ならびに本誌の編集方針にそぐわない内容、冊子の配置協力をお願いしている各企業の基準に抵触する内容、営利目的のみの内容、特定の宗教や信条に関わると判断される内容、反社会的と判断される内容、公序良俗に反する内容等については掲載をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

一般財団法人メルディアへのご支援とご協力を募集

障がいのある子供を持つ親の苦勞や将来への不安は、他の人には計り知れないほど大きなものがあります。さらに、それが寡婦・寡夫家庭であった場合、経済的な負担、苦勞、不安なども一人で背負わねばならない状況に置かれることもあります。

私たち「一般財団法人メルディア」は、会報誌「月刊メルディア」を通じて、誌上に厳選した有益な情報を掲載することで、周囲との情報交換もままならず不安を抱える人たちの情報源として、その一助となることを目指しています。

私たち「一般財団法人メルディア」の活動に対するご支援(取材協力・協業の相談・各種支援・支援金・寄付)など、当財団の趣旨に賛同してご協力を頂ける企業・団体・個人を募集しています。下記にある当財団の事務局までご相談ください。

お問い合わせとご相談はこちら 一般財団法人メルディア

〒163-0632 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F  
一般財団法人メルディア 事務局/担当: 後藤(ごとう)・鷺坂(さぎさか) 宛て  
TEL: 03-5381-3213 / MAIL: org@gf-meldia.com



ホームページと Facebook

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報、取材の裏話など、情報が盛りだくさん! Facebookページのご用意もあります。是非とも一度、ご覧ください。



障がい者が働く企業や団体からの情報や告知

障がい者が働く施設や団体のイベント情報、その他の情報、各種の告知、一般財団法人メルディアからのお知らせなどを掲載しています。

Event

一般財団法人メルディアが贈る「クリスマス MELDIA Cafe」開催



一般財団法人メルディアが贈る「クリスマスMELDIA Cafe」が開催されます。本冊子の連載でもお馴染みのシンガーソングライター・水越けいこさんによる講演とライブ、協力企業や協力団体などによるカフェイベントなども同時開催の予定です。

■日時

2018年12月22日(土) ※予定

■場所

東京都文京区西片1-17-3/BXホール(文化シャッター本社ビル2F)

■イベント内容

水越けいこによる講演&ライブ/協力企業&団体によるカフェイベント ※予定

■イベント詳細

時間詳細、参加方法、参加条件などについては「一般財団法人メルディア」のサイトへ <https://meldia.org/>

Cafe

hikari no café / 蜂巢小珈琲店

次号にて掲載予定!



■場所

栃木県大田原市蜂巢295

TEL: 0287-54-2255

■営業時間

AM11:00 ~ PM5:00 (L.O./PM4:30)

ランチタイム AM11:00~PM2:00

毎月、第三水曜日が、全体研修のため

13:30オーダーストップ 14:00閉店 となります

■定休日

日曜・月曜

■店舗紹介

廃校となった小学校をリノベーションした素敵なかフェ。

新鮮野菜たっぷりのランチがおすすめです。

■URL / <http://www.hikarinocafe.com/hachisu/>



お便り募集!

あなたが知りたいことを  
あなたに代わって編集部が調べます

読者の方々が障がいに関して「知りたいこと」、「疑問・質問」、「法的な情報」、「扶助情報」などをみなさんに代わって編集部が調べ、取材し、記事にしたいと思えます。「こんなことを調べて欲しい」、「こんな情報があるが詳細が知りたい」など、どんなことでも構いません。左ページに記載の「一般財団法人メルディア事務局」まで、メールまたは郵便にてお送りください。

※お寄せいただくご要望の全部にお応えすることはできません。また、掲載する記事に関してはメルディア事務局ならびに編集部にて選択させていただきます。予めご了承ください。





Design Your Life

MELDIA  
GROUP

同じ家は、つくらない。

# 13 | MELDIA CONTENTS 2019 JAN.

- 01 | 布施博が訊く／特別編**  
全国ナイスハートバザール2018 in ながの
- 06 | 一般財団法人メルディアとは？**  
メルディアの基本理念、財団概要、支援事業
- 07 | 障がいとスポーツ**  
日本ブラインドサッカー協会 & 日本代表女子
- 11 | MELDIA Cafe - autumn issue -**  
メルディアカフェ開催詳報
- 15 | 水越けいこ連載「M size / はじまり」**  
水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る
- 17 | 障がいと就労**  
ウェルビー株式会社
- 21 | つむぐ～こえをきく～**  
脚本家・渡邊希望が障がい者の「声」を聞く & 特別篇
- 25 | 弁護士が教える「障がい者と法律」**  
表参道パートナーズ法律事務所 / 弁護士・安部晃平
- 27 | イベント情報と店舗情報・その他**  
障がい者が働く施設や団体の情報・店舗情報など
- 28 | 募集と告知**  
取材先募集と協賛の募集など

月刊 MELDIA Vol.13 / 2018年11月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア事務局  
 発行人 / 小池信三  
 事務局 / 榎本喜明、後藤正善、鷺坂浩章  
 編集 / 株式会社サン・オフィス  
 編集人 / 東宮恵美  
 編集長 / 山口慎市  
 進行 / 東宮恵美、山口慎市、谷田貝亘介(新村印刷)  
 編集部 / 東宮恵美、都筑亮太、村田保則、渡邊希望  
 ライター / 水越けいこ、布施博、大矢真那、安部晃平、山口慎市、  
 渡邊希望、横関寿寛、大橋はるか、矢野くるみ  
 カメラマン / 吉岡晋(PMJ)、鈴木忍(PMJ)  
 ヘアメイク / 鳥取まりこ  
 デザイン / 有限会社フレッシュ・アド  
 印刷製本 / QREAS株式会社  
 協力 / MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計、  
 社会福祉法人 全国社会福祉協議会、全国社会就労センター、  
 特定非営利活動法人 日本セルフセンター、  
 特定非営利活動法人 長野県セルフセンター協議会、  
 社会福祉法人 足利むつみ会、阿由葉洋平、  
 特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会、  
 ウェルビー株式会社、表参道パートナーズ法律事務所、  
 株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、  
 株式会社PHOTO MIO JAPAN、新村印刷株式会社

※敬称略/順不同

次号予告

## MELDIA VOL.14

2018年12月25日  
発行予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632  
 東京都新宿区西新宿 1-25-1  
 新宿センタービル 32F  
 一般財団法人メルディア 事務局  
 TEL: 03-5381-3213  
 MAIL: org@gf-meldia.com

## メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計  
 〒163-0632  
 東京都新宿区西新宿1-25-1  
 新宿センタービル32F



まだ25年、  
これからのメルディア

本誌の無断転載・複製を禁じます

2017-2019 © All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア / 月刊MELDIA  
MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計 / 株式会社 サン・オフィス